

平和について考える

金武町立金武小学校 六年

伊芸 美優

「こわい。おそろしいよ。二度と戦争は起きてほしくないし、起こしてはいけないよ。」

六月二十三日の慰霊の日が近づくと決まって学校では平和学習が行われ、戦争体験者の話を聞いたり、関連本や資料を読んだりして、感想をまとめてきました。その中で私はそのような感想を書いてきたのです。しかし、戦争を知らない私達にとって、戦争そのものは遠い存在であり、人ごとのような感じでもありません。

「日本でまた戦争が起きるなんて、絶対にあり得ない。」

そんな風に思って、真剣に平和について考えていなかったように思います。そんな私に気づいたのは両親との会話がきっかけでした。

「六年生の総合学習では平和について学ぶんだって。平和って、どういうこと？」

学校でのことを話題にして、私は両親にそうたずねました。すると

「戦争がないことさー。」

「戦争がなくて、ふつうに暮らせることではない？」

そんな答えが返ってきました。その時、私の中で何かしっくりしない気持ちが出てきました。でもその時はその気持ちを上手く表現できず、相づちをうって話が終わりました。

それから私は自分の考えを整理してみました。「平和とは何か」については、戦争がないのは当然と知っている私にとって、戦争がないから平和というのは、少し違うような気がしたので。そして私が出した「平和とは何か」の答えは三つでした。一、ご飯が食べられるということ。二、学校があって、勉強ができるということ。三、両親や家族がいること、です。食べるものがなくては生きていきません。戦争のあるなしの前に、生きていくかどうかという

うのが第一だと考えたのです。学校や勉強については、勉強する環境があるからこそ、何がいいことで何が悪いことなのか、自分はどう生活していけばよいかを知ることができると考えたからです。三つ目の両親や家族については、もちろん一人では生きていけないからです。両親が私達のために働いてくれるからこそ、食事ができ学校にも通うことができます。一人ではそれができないとなれば、やはり両親や家族がいることが平和につながると私は考えたのです。

もしかしたら、「平和とは何か」という問いの答えは一人一人違うかも知れません。でも、私が考える「平和」が自分の中ではっきりしたこと、私はこれからの平和学習が楽しみになってきました。

私は糸満市にある平和祈念資料館に行った経験があります。戦争で家族を亡くした人や戦地で戦った人の体験談が書かれた大きな本を読んだことを今でも覚えています。覚えているのは「かわいそう」とか「こわいな」とか思った記おくだけです。何をみてこわいと思ったりかわいそうだと思ったりしたかまでは心に残っていません。その時の私が、まだ戦争や平和について十分に考えたり理解したりできていなかったからだと思います。でも、今なら、もっとちがった感想を持つような気がします。「食べるもの、どうしていたのかな。どうやって、生きのびたのかな。」

「いきなり学校がなくなって、勉強はどうしていたの、だろう。友達とはどうなったの？」

「家族をなくして、どうやってその苦しみを乗りこえて、生きてきたのだろう。」

そんなことを考えながら体験談を読むことができると思います。

慰霊の日がもうすぐきます。その前にもう一度資料館に行ってみたいです。そして、もっと真剣に戦争や平和について考えてみたいと思います。